これで達人　―　付帯状況を表す With 構文のマスター

I.Nishida
Richmond E.S.
April 18, 2006

１．付帯状況を表す With 構文とは

例えば、

彼女は<u>目を閉じて</u>音楽を聴いている。

She listens to the music ***with her eyes closed***.

彼は<u>ヨダレを垂らして</u>寝ている。

He sleeps ***with a steam of saliva running down out of his mouth***.

日本人の平均寿命は世界一で、<u>男性は平均 79 歳、女性は 86 歳である</u>。

Japanese people enjoy world's longest life expectancy, ***with males living an average of 79 years, and females 86***.

の日本文で、下線部は、本来の主体について述べ、かつ、そのついでにその付随、付帯している状況を付加して表現している。日本文に対応する各英文は、with 句をつかって一つの文で表現している。　このように、with 句を用いて本文に付帯状況を付加して表すものを、「付帯状況をあらわす with 句（構文）」という。

２．　With 句の構造

付帯状況を表す with 句は、

with　＋　「目的語」　＋　「補語」

という形になっている。

ここで、前置詞 with の「目的語」は、付帯状況の（を表すための）**意味上の主語**であり、その後の「補語」は**この意味上の主語（主体）がどういう状況（状態）**にあるかを述部として補っている語（補語）である。

ここで述部の補語になりうるのは、形容詞句に相当するのが一般的で、**現在分詞、過去分詞**が主に使われるが状況の表現に応じて**前置詞句、副詞**なども用いられる。

３．　付帯状況の with 句をつくるコツ

付帯状況を with 句を使って、一文としての英文で表現するコツは、

（１） 全体のイメージを思い浮かべた中で、付随、付帯している部分のイメージをはっ

きりさせる

（２） 付帯部分のイメージの中で、何が主体（意味上の主語）でその主体がどんな風な状況・状態にあるかの述部をイメージする

（３） この付帯部分の主体（主語）を with 句の目的語にし、その主体（主語）の状況（状態）を表す述部の語句を補語として目的語の後におく。

＜例１＞（補語：現在分詞）

「彼は、背を壁にもたれて立っている。」

－イメージ－

① 彼は立っている。

② （付帯状況は、）背を壁にもたれかけている。

③ 付帯状況の中で、(意味上の主語) 背が壁に、(述部) もたれているという動作を leaning という現在分詞をつかって補う。

He stands ***with his back leaning against the wall***.

＜例２＞（補語：過去分詞）

「彼は、脚を組んでベンチに座っている。」

－イメージ－

① 彼はベンチに座っている。

② （付帯状況は、）脚を組んでいる。

③ 付帯状況の中で、（意味上の主語）彼の脚が、組まれている(crossed)という過去分詞を使って状況を述べる（補語する）。

He sat on the bench ***with his legs (being) crossed***.　　（注：being は省略可）

＜例３＞（補語：前置詞句）

「彼は、両手をポケットに入れて歩いている。」

－イメージ－

① 彼は歩いている。

② （付帯状況は）手をポケットに入れている。

③ 付帯状況の中の意味上の主語：　彼の両手（his hands），状況補語：ポケットの中に (in the pockets)

He walks ***with his hands in the pockets***.

＜例４＞（補語：副詞）
「彼は、テレビをつけたまま寝てしまった。」
ーイメージー
① 彼は眠りに落ちた。
② （付帯状況は）テレビがついたまま
③ 付帯状況の意味上の主語：the television、　その状況補語：on（ついたまま）

He fell asleep ***with the television on***.

＜例５＞（長文の分解例）
「不良債権問題のめどがついて、日本の大手銀行は採用人員を増やすことが出来るようになった。」
ーイメージー
① 大手銀行は採用人員を増やしている
② （付帯状況は）不良債権問題の終了が視野に入ってきた。

With the end of bad-loan problem coming into sight, Japan's major banks are in a position to hire more staff.

４．　独立分詞構文との関係

with 構文による付帯状況の表現とよく似たものに分詞構文がある。
分詞構文の場合は、分詞の意味上の主語と本文の主語とが一致する場合が普通である。
Walking(= While I was walking) alone, I met a friend.
Admitting(= Though I admit) what you say, still I must say you have made a mistake.

しかし、分詞の意味上の主語と本文の主語とが一致しない場合は（…　やや違和感を感じるが)、分詞の主語を明示する必要があり、**これを独立分詞構文**という。
(1) ***The ceremony being over***, they dispersed.
(2) He talked on and on, ***the audience beginning to feel bored***.

上述１．の、付帯状況を表す with 構文で、
with ＋ 「目的語」 ＋ 「補語」
「目的語」は、付帯状況の中の意味上の主語と説明した。したがって、(違和感を感じさせる）独立分詞構文を用いるよりは、with をつけて付帯状況を表す文にしたほうが自然

な感じとなる。上記の例文では、

(1-1)　***With the ceremony (being) over***, they dispersed.

(1-2)　He talked on and on, ***with the audience beginning to feel bored***.

＜さらなる勉強＞

現代英語では違和感を感じる「独立分詞構文」を、学術文法書（「英文法汎論」細江逸記）では、「遊離文句」といい、その根本義は「付帯の状況」を表すと看破している。まさしく至言である。

「遊離文句」の中の主語たる名詞の格は、現代英語では当然「主格」で、「遊離主格」と呼ばれている。しかし、英語の歴史研究では古い時代は格は与格が用いられていることがわかっている。(Him yet speaking they came from the synagogue.　Mark. V.25 の現代語訳、「英文法汎論」より)

＝以上＝